

ユダヤ人はなぜ優秀なのか

長谷川 修

二十世紀の世界に影響を与えた知識人を三名挙げると、マルクス、フロイト、アインシュタインが浮かぶ。三人ともユダヤ人だ。また、これまでノーベル賞の受賞者約九百名のうち一八〜二五％は、世界の人口比〇・二％のユダヤ人が占める。民族の優劣は簡単には断じえないが、これだけの格差があると「ユダヤ人はなぜ優秀なのか」の理由を探りたくなる。いくつかの説を紹介しよう。

仮説Ⅰは、ユダヤ人は二千年近く土地を持たない離散の民であったことに加え、中世以降のキリスト教社会では差別されてきた。不安定な厳しい環境の中で、彼らは普遍的な真理を探求し知識の価値を高いものとし、また多言語・多文化に慣れ親しむ習慣を身に付けた。ただ世界には、ユダヤ人以外にもマイノリティで差別されている民族は多くいて、ユダヤ人だけが秀でている根拠としてはやや弱い。

仮説Ⅱは、ユダヤ教の宗教体制そのものにある。ユダヤ教はそのメンバーに学問を要請し、子供のころからシナゴグ（会堂）でラビ（律法学者）の指導の下、「ヘブライ語聖典」「口伝トーラー」「ミシュナ」「タルムード」を徹底的に学習した。特に「タルムード」は古代からの註解や論争を記したテキストで、これを題材に対話と推論を行い、新たな見解に至る。近代ユダヤ人の世界的知的分野への進出は、蓄積された伝統的教育の成果と見なす。

仮説Ⅲは、ユダヤ共同体の狭量さや古臭さを乗り越えて、理想とその実現を求めた一群の思想家がいる（ドイツチャー著『非ユダヤ的ユダヤ人』では、スピノザ、ハイネ、マルクス、トロツキー、フロイト等を挙げる）。普遍的法則性の把握、人間の繋がりにへの確信、国家や民族を超えた平等な社会の希求は、多様な人材を生んだ。

以上三つの仮説は、どれも当たっているようだが、今ひとつ説得力に欠ける。これは、世界を流浪してきたユダヤ人概念の曖昧さによるのだろうか。

そこで仮説Ⅳ「ユダヤ人は宇宙から来た地球外生命体」は如何ですか。